

に使っていただきたいなという気はしていますね。データの活用みたいところで、データの流通というのが大事だなというのを私は今思っているところなので、そういうところから何か、支援していただけたらなというふうに思っています。

里：ありがとうございます。

では、高柳さん、お願いします。

高柳：私も牧山さんとかの話に近いのですが、非専門家がITを使い始めていて、それでデータ分析も意外とみんなやればできるじゃんという状況にはなっている気がするので、もう少し大学と産業の連携を頑張る。まあ、インターンを増やしすぎると、今度は勉強する時間、学生としての学問をする時間がなくなるので、問題だなとは思いますが、もう少し行き来の自由度を高めていければ、もうちょっと良くなっていくのかな、全体的にデータ活用とか、日本の産業とか、社会とかも全部そうですけれども、良くなっていくのかなというのを、今日話して、ふと思いましたという感想です。

里：はい。ありがとうございました。

安部：里さんから締め言葉はないのですか、里さんの感想なりを（笑）。

里：いや、全然、考えていなかったです（笑）。

石井：ちょうど時間になりました。皆様、本日はお忙しい中座談会にご協力いただきありがとうございました。

脚注

☆1 <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/news/18/10691/>

☆2 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル） | 文部科学省

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00002.htm

☆3 数理・データサイエンス・AI（応用基礎レベル）モデルカリキュラム～AI×データ活用の実践～ http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/model_ouyoukiso.html

☆4 モデルカリキュラム（応用基礎レベル）案に関する意見募集 http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/mc_ouyoukiso.html

☆5 データサイエンティスト スキルチェックリスト ver3.01

https://www.datascientist.or.jp/common/docs/skillcheck_ver3.00.pdf